

研究結果説明書

1. 事業の実施期間

契約開始日 ~ 令和6年3月31日

2. COREネットワークの構成

(1) COREネットワークの名称 ひなたハイスクール・ネットワーク

(2) COREネットワークを構成する高等学校等

- | | |
|-----------------|--------------|
| ① 宮崎県立高千穂高等学校 | ② 宮崎県立延岡高等学校 |
| ③ 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校 | ④ 宮崎県立福島高等学校 |
| ⑤ 宮崎県立宮崎南高等学校 | ⑥ 宮崎県立日南高等学校 |

3. 調査研究結果の概要

(1) 「教科・科目充実型」の遠隔授業などICTも活用した連携・協働の取組
(受信教室における体制の在り方に関する取組を含む。)

① 遠隔授業の実施に適した教科・科目の「整理」

教員が持つ強みを最大化し、生徒の学習ニーズに対応するための遠隔授業の実施について、県内2箇所のネットワークで取り組んだ遠隔授業の参観ならびに担当教員からのヒアリングから得られた「整理」は、以下のとおりである。

- ア 授業力を重視した実施ケース（本県での実践事例：物理）
 - ・担当教員の授業設計力や教科指導力が高い場合、対面授業と同質の対話的・協働的な授業の実施が可能である。
- イ 専門性を重視した実施ケース（本県での実践事例：情報）
 - ・専門性を有する教員が担当する場合、学校間の双方が納得して、受信側の生徒のニーズに対応した実施が可能である。
- ウ 単元やテーマを重視した実施ケース（本県での実践事例：美術）
 - ・地理的条件などを伴う場合、遠距離にある文化施設等と連携した鑑賞教育の実施など、ICTの強みを生かした授業の実施が可能である。

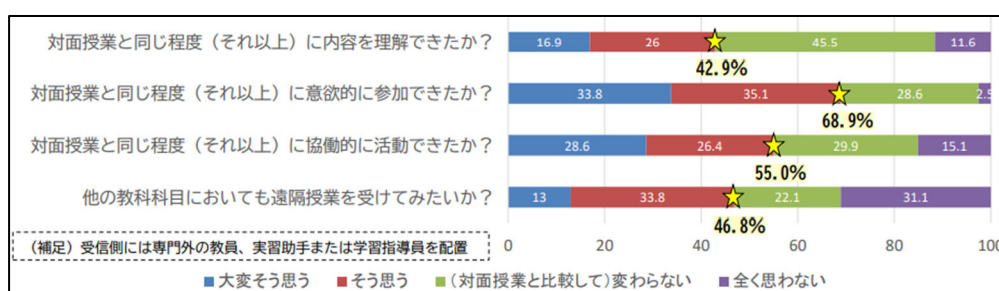
② 遠隔授業の実施による学習効果と課題の「分析」

受信校の生徒を対象として、県独自のアンケート調査（年間2回）を実施し、遠隔授業の学習効果と課題を定量的に把握した。アンケート結果から得られた主な「分析」は、以下のとおりである。

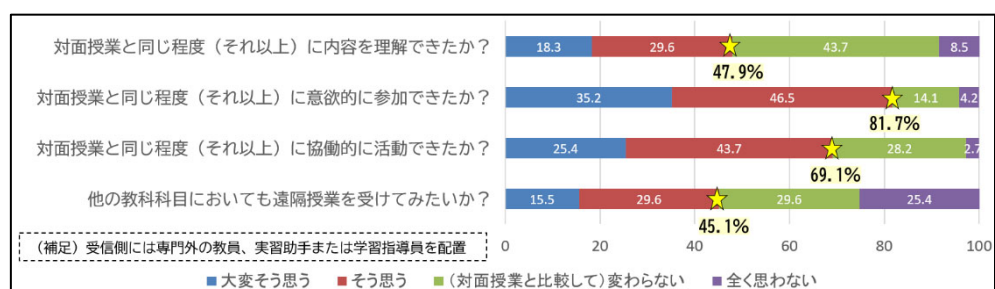
- ア 多くの生徒は、遠隔授業に特別な感覚を持つことなく受講できている。
- イ 遠隔授業を担当する教員がオンラインの特性を理解し、授業設計を工夫するこ

とによって、対面授業と同程度（または、それ以上）の協働的な学びが実現できている。

- ウ 学習の理解や定着について、生徒・教員それぞれが実感として掴むことができていない現状にあり、学習評価の手法と合わせて、引き続き検証する必要がある。
- エ 遠隔授業を単に「対面授業の代替」として捉えることがないよう、生徒・保護者に丁寧な理解を求めることが重要である。



「遠隔授業に関する第1回アンケート結果 (N=78)」より一部抜粋



「遠隔授業に関する第2回アンケート結果 (N=71)」より一部抜粋

(2) 学校間連携を行うための運営体制に関する取組

① 遠隔授業を担当する職員に対する定期的な「支援」

年間を通じて定期的に学校訪問を実施し、遠隔授業の実施形態や授業設計について、担当職員（配信校・受信校）に対する指導助言ならびに意見交換を行った。これらの「支援」を通して得られた成果と課題は、以下のとおりである。

成果 受信を担当する職員の生徒との関わり方や見取り（遠隔授業の反応等）が重要で、配信を担当する教員の負担感・不安感の軽減に繋がっている。

課題 学校行事による校時程の変更など、学校間で細やかに連絡調整する必要があり、管理職が果たす役割と負担が大きくなっている。

② 遠隔授業を実施する目的と意義に関する「熟議」

ネットワーク構成校の管理職ならびに本県の運営指導委員、CIOを交えた運

営指導委員会を実施し、本県において遠隔授業を実施する目的と意義について協議を行なった。運営指導委員会において「熟議」した主な内容は、以下のとおりである。

- ア 遠隔授業の意義や目的を理解するためには、管理機関が長期的なビジョンを明示し、学校現場まで丁寧に事前説明を行うことが重要である。
- イ 遠隔授業を通して、対面授業にも活かすことができる部分や授業改善のポイントに気づくことも多く、1人1台端末を活用した「新しい教育デザイン」への転換という視点をもって、本事業の意義を改めて捉え直す必要がある。

(3) 市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

① 多様なコンソーシアム構成員の協働による探究学習プログラムの「開発」

県北ネットワークにおいて、多様なコンソーシアム構成員（コンソーシアム構成校、世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会、宮崎県教育庁高校教育課）が協働し、探究学習プログラムを企画・運営することができた。「開発」した探究学習プログラムの概要は、以下のとおりである。

- 対 象 高千穂高等学校ならびに五ヶ瀬中等教育学校の選抜生徒 10名
- 期 間 令和5年8月から12月まで
- 内 容 世界農業遺産（高千穂郷・椎葉山地域）をテーマとした取材活動を行い、その魅力を広報誌ならびに Web ページにて発信する活動を行っている。今回は、その一環として、東京都にてスタディツアーを実施し、FAO（国際連合食料農業機関事務局）や Google 合同会社を訪問する体験型探究活動を取り入れた。

② 魅力化コーディネーターの配置によるモデルケースの「共有」

11月にコンソーシアム構成校（管理職）と本課担当者が、島根県教育委員会ならびに（一社）地域・魅力化プラットフォーム、島根県立吉賀高等学校を視察し、魅力化コーディネーターの導入に至るまでの経緯や取組、コーディネーターが果たす役割等について、先進地域のモデルケースを学ぶ機会を設けることができた。なお、令和4年度より高千穂町が自治体主導で魅力化コーディネーター（3名）を配置している。「共有」することができた主な内容は、以下のとおりである。

- ア コーディネーターによる業務支援の有効性を実感するとともに、コーディネーターが発揮する3つの機能を整理することができた。
 - ・プロデュース機能：全体統括を行い、地域と学校のビジョンを創る

- ・マネジメント機能：連絡調整を行い、地域と学校の足並みを揃える
 - ・サポート機能：現場の相談役となり、地域と学校の活動を支える
- イ 予算措置や人的支援の裏付けとなる基本的な方針が必要であり、今後の高等学校整備計画と紐付けながら、丁寧な議論を行なっていく必要がある。

4. 調査研究の実績

(1) 実施日程

月	実施内容 ※丸数字は(2)の説明項目を表示
R5年4月	② ネットワーク構成校(管理職)との打合せ
5月	① 担当教員ヒアリング(配信校・受信校)
6月	① 学校訪問ならびに授業支援(受信校)
7月	① 学校訪問ならびに授業支援(配信校) ③ 県内コンソーシアムによる探究ポスター発表会(宮崎市) ② 運営指導委員会(第1回:福島高校にてハイブリッド型で開催)
9月	① 遠隔授業に係る生徒アンケート調査(第1回)
10月	① 遠隔授業の一般公開(小・中・高・特支の教職員を対象)
11月	③ 地域協働に関する先進地域視察(島根県教育庁、魅力化PF) ① ICTを活用した鑑賞型授業(第1回:日南高校から配信)
12月	② 運営指導委員会(第2回:宮崎県庁にて参集型で開催)
R6年2月	① ICTを活用した鑑賞型授業(第2回:高鍋町美術館から配信) ① 遠隔授業に係る生徒アンケート調査(第2回)
3月	① 遠隔授業の効果的な実施に関する研修会(県内の情報科教員)

※学校における調査研究の実績のほか、コンソーシアムの活動等についても記入すること。

※遠隔授業システムを活用した教育課程外の取組については、アンダーラインを付すこと。

(2) 調査研究実績の説明

① 「教科・科目充実型」の遠隔授業などICTも活用した連携・協働の取組

(受信教室における体制の在り方に関する取組を含む。)

ア 担当教員ヒアリング、学校訪問ならびに授業支援(配信校・受信校)

- ・5月から7月にかけて本課担当者が各ネットワーク構成校を訪問し、遠隔授業を参観するとともに、実施後に授業設計に関する指導助言や意見交換(効果的な遠隔授業の事例に関する情報提供を含む)を行なった。

イ 遠隔授業の一般公開、遠隔授業の効果的な実施に関する研修会

- ・10月に全ての県内学校の教職員のうち希望者(28名)を対象として、遠隔授業の一般公開(オンライン)を実施した。また、3月に東原義訓氏(信州大学名誉教授、運営指導委員)を講師に招聘し、県内の情報科教員のうち希望者

(3名)を対象として、遠隔授業を想定した授業に関する研修会を実施した。

ウ ICTを活用した鑑賞型授業

- ・芸術科における効果的な遠隔授業のモデルケースとして、鑑賞教育に焦点を充てた遠隔授業を実施した。また、2月は遠隔地にある県内美術館と連携し、本県に所縁のある画家の作品を教材とした「対話型鑑賞」に取り組んだ。

エ 遠隔授業に係る生徒アンケート調査

- ・遠隔授業を受講している生徒を対象として、アンケート調査(年間2回)を実施し、本県における遠隔授業の効果と課題を分析する際の基礎資料とした。

② 学校間連携を行うための運営体制に関する取組

ア ネットワーク構成校(管理職)との打合せ

- ・4月当初に本課担当者(前年度担当を含む)がネットワーク構成校を訪問し、管理職向けに今年度の実施計画を説明するとともに、本事業の意義や目的に関する意見交換を行った。

イ 運営指導委員会

- ・7月と12月にネットワーク構成校(管理職)ならびに運営指導委員、CIOを交えた運営指導委員会を実施し、全国実証地域連絡協議会の資料をもとにした情報提供や本県の運営体制に関する意見交換、次年度以降の遠隔授業の取組に関する協議を行った。

③ 市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

ア 県内コンソーシアムによる探究ポスター発表会

- ・7月に県内コンソーシアム(ネットワーク構成校を含む県内17校)を対象として、参加生徒(総勢1000名程度)によるポスター発表会を実施し、地域課題の発見や解決を目指した探究活動の成果を共有する機会を設けた。

イ 地域協働に関する先進地域視察

- ・11月にコンソーシアム構成校(管理職)と本課担当者が、島根県教育委員会ならびに(一社)地域・魅力化プラットフォーム、島根県立吉賀高等学校を訪問し、魅力化コーディネーターが果たす役割に関する意見交換を行った。

5. 遠隔授業の実施状況

受信校	教科	科目	遠隔授業を実施した授業回数（対面授業を除く。）
宮崎県立高千穂高等学校	理科	物理探究	3 2
宮崎県立高千穂高等学校	理科	生物探究	3 2
宮崎県立高千穂高等学校	公民	政治経済	9 1
宮崎県立高千穂高等学校	情報	情報 I	6 6
宮崎県立福島高等学校	国語	国語研究	3 1
宮崎県立福島高等学校	理科	科学と人間生活	6 4
宮崎県立福島高等学校	情報	情報 I	6 4
宮崎県立福島高等学校	芸術	美術 I	3 2

6. 調査研究の進捗状況、成果、評価（※目標設定シート（別紙様式1 別添 4）を添付）

（1）本構想において、実現する成果目標の設定（アウトカム）

① 学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		180.0	180.0	183.0
実績値	179.8	176.4	149.6	149.2
把握のための測定方法及び指標	受信校における基礎力診断テスト（国数英3教科）の学年平均点をもとに検証を行う。※令和4年度・令和5年度は両校とも普通科は未受験			

② 地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数（総合的な探究の時間を含む。）

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		7	7	9
実績値	7	7	7	7

（参考）上記のうち、学校設定科目の数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		4	4	4
実績値	4	4	4	4

③ 免許外教科担任制度の活用件数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		0	0	2
実績値	0	0	0	0
構成校の数	6			

④ その他、管理機関が設定した成果目標

成果目標1：自分の住んでいる市町村など、ふるさとが好きである

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		88%	90%	92%
実績値	86.6%	83.8%	80.4%	83.8%
目標設定の考え方	本県において毎年実施している「みやぎきの教育に関する調査」と同項目により実績値の比較をすることで成果の検証を行う。 ※県内高校2年生の「とてもあてはまる」「ある程度あてはまる」の実績値			

成果目標2：将来ふるさとへ貢献しようとする考えをもって進路選択を行っている

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		55%	58%	60%
実績値	48.7%	53.4%	50.0%	43.2%
目標設定の考え方	本県において毎年実施している「みやぎきの教育に関する調査」と同項目により実績値の比較をすることで成果の検証を行う。 ※県内高校2年生の「とてもあてはまる」「ある程度あてはまる」の実績値			

(2) COREハイスクール・ネットワークとしての活動指標（アウトプット）

① COREネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数

	2年度	3年度	4年度	5年度
実績	0	0	3	8
見込み		0	2	8

② 地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
実績	2	2	2	2
見込み		2	2	2

③ その他、管理機関が設定した活動指標

活動指標1：総合的な探究の時間

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
実績	0	2	2	2
見込み		2	4	6
活動指標 の考え方	ネットワーク構成校間において「総合的な探究の時間」に遠隔授業を行った実施数（探究ポスター発表会を含む）			

活動指標2：教育課程外における教科指導に係る遠隔授業の実施数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
実績	0	2	2	4
見込み		2	10	20
活動指標 の考え方	ネットワーク構成校間において、大学入試二次試験対策や小論文指導等の教科指導ならびに探究活動に係る遠隔講座を行った実施数			

7. 次年度以降の課題及び改善点

3年間の本事業を振り返って、「成果」と「課題」ならびに「改善点」は、以下のとおりである。

① 成果 (Keep)

- ・遠隔授業を活用することで、専門性の高い教員による授業を開設することが出来た。また、担当教員が授業改善に取り組む機会となった。
- ・都市部とは異なる新たな教育活動（遠隔授業・地域連携）を実践することで、小規模校「ならでは」の魅力を高めることが出来た。

② 課題 (Problem)

- ・担当教員のニーズに応じた定期的な支援（遠隔授業に特化した研修や情報交換、先進地視察等）を十分に行うことが出来なかった。
- ・本事業の取組を県民に広く周知し、小規模校の魅力を発信する機会（メディアの活用等）を十分に設定することが出来なかった。

③ 改善 (Try)

- ・遠隔授業の強みと特性を整理し、授業改善の視点に重点を置きながら、本県における遠隔授業の活用の最適化を図りたい。
- ・中長期的なビジョンをもって、本県の県立高校それぞれが担うべき役割（スクールミ

ッション)を再整理し、小規模校がもつ魅力を明確にしたい。

以上、①②③をもとにしながら、令和6年度以降は次の2点について、本事業で培った知見を生かすことができるよう取り組んでいきたい。

- 本県において遠隔授業を行う意義(必要性/必然性)を再整理した上で、配信拠点の検討・検証を進める。
- 地域の核として県立高校を位置付け、次期「宮崎県高等学校教育整備基本方針」に反映させる。